

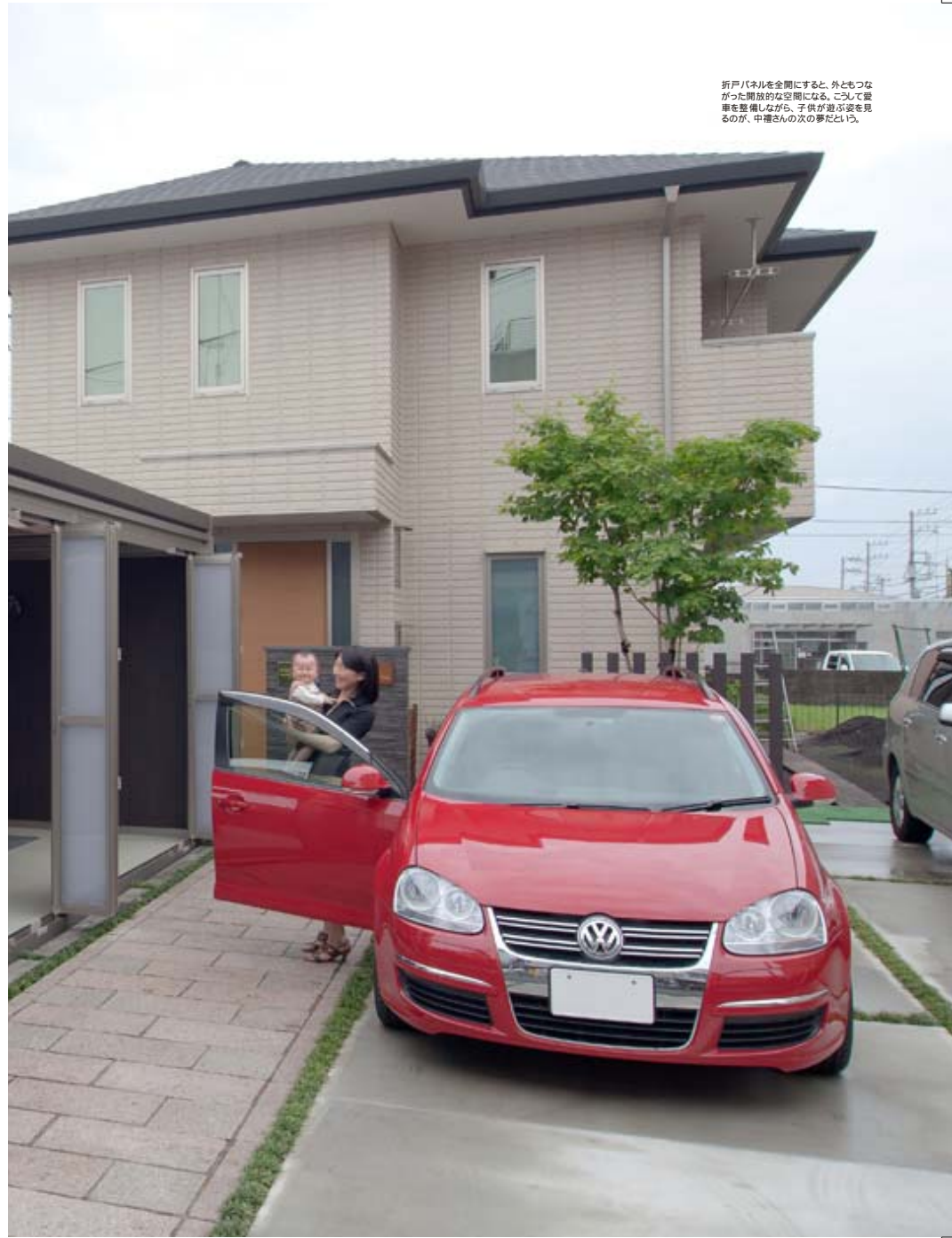
10 『スタイルコート』に合わせて母屋をデザイン。 ピットも備える実践派ガレージが完成。

GARAGE LIFE EXAMPLE

神奈川県 中禮邸

ライトウエイトスポーツカーのロードスターをこよなく愛するご主人が求めたものは、愛車と豊かな時間が過ごせる、クルマとメンテナンス工具が収まるガレージだった。そして二世帯住宅の建設と同時に、施主のガレージライフも時を刻み始める。そこで施主の目に合ったのがモダンでサイズも豊富な『スタイルコート』だった。

text & photo / Masayuki-YOSHIMIKI (吉見雅幸)
取材協力 / 株式会社LIXIL(TOEX) <http://toex.lixil.co.jp>



折戸パネルを全開にすると、外とつながった開放的な空間になる。こうして愛車を整備しながら、子供が遊ぶ姿を見るのが、中禮さんの次の夢だという。



パソコンで描いたイラストで照明箇所を説明。言葉で説明するよりもわかりやすく、これは非常にいいアイデアだ。

お気に入りコレクションの展示にも、『スタイルコート』の栞洗カラーが落ち着いた背景になっている。

会社の先輩から譲り受けたNA6CE ユーノス・ロードスター。中禮さんの元に来てから10年以上の歳月が流れている。天窓の日除けカーテンはオーナーのアイデアだ。



なんととっても特徴的なのは地下のピットだろう。蓋は垂鉛メッキされた重さ7キロの剛板ががぶらせている。



38 x 60 サイズの『スタイルコート』を選択したため、工具スペースなどにも余裕がある。キャビネットは独身時代から続けていた500円貯金を崩して購入したもの。

10 「雨風がしのげるのがうれしいです！ 洗車後のボディの水はじきが全然違います!!」

GARAGE LIFE EXAMPLE
A RESIDENCE OF TYUREI

新築二世帯住宅ともよくコーディネートされた『スタイルコート』。上下窓の下には中禮さんのアイデアで、栞洗色のパネルを設置。



栞洗カラーの『スタイルコート』と相性の良い、落ち着いた色合いのモダンな住宅。そこにワンポイントとして配したシンボルツリーや、駐車場や子供の遊び場にも使えるフリースペースをかねたエントランスに玉竜を配し、無機質なコンクリートにぬくもりを感じさせるレイアウトが施された、お洒落なたずまいの外観。すべてのパーツ、ガレージや住居、エントランスを含めて絶妙な配置がされているのだ。

今回ご紹介する施主は、ライトウエイトスポーツカーのユーノス・ロードスター NA6CE をこよなく愛する、神奈川在住の中禮 ちゆうれい さん。以前は東京都内で奥様と二人暮らしをされていたという中禮さんの愛車は、その当時からロードスターで、お二人のデートにもかかせない愛車だったという。時を経て、中禮さんの実家で住宅新築のプランが持ち上がる。様々な選択肢が考えられる中、人生のパートナーとなった奥様の理解も得て、中禮さんは、通勤には時間がかかるが、都内から神奈川の郊外へ移り、二世帯住宅を建てて暮らすことにした。それは同時に、敷地にスペースの余裕が生まれ、念願のガレージライフが実現可能になったということでもあった。それまでは、愛車の整備はもっぱら屋外のみで行っていて、色々不便や不満があり、中禮さんは常々ガレージがほしいと思っていたのだった。

10 PLANNING DATA & MATERIALS

GARAGE LIFE EXAMPLE
A RESIDENCE OF TYUREI

ガレージ内照明は2種類を使い分け。
蛍光灯の整備モードと、電球の雰囲気モード。

ガレージの床は整備性重視のため、当然のように耐油性の塗料がコーティングされている。ガリンスタンドが使われているタイプだという。



満面の笑みを浮かべているのは将来のハッピーオーナーである娘さん。幸せが重なり、家族みんなが笑顔が溢かっている！

もう一本の配管がガレージへと繋がっており、ガレージのバージョンアップで電線が増設されても見苦しくないよう徹底されたスタイルアップが行われているのだ。

中様さんのこだわりは留まらない。ガレージ内の配線はすべて隠蔽配管が施されている。打ち合わせも念入りに行われ、小林さんも「ガレージ本体の施工よりも、電気の配線の方が大変でした」と語るほどだ。

その他、電源スイッチの工夫や天窓の日除けカーテンなど、低予算に抑えてなおかつ実用的なアイテムがたくさん盛り込まれている。天窓の日除けアイテムなどは、ホームセンターや100円ショップで揃えたものだという。また、整備重視の中様さんにとって欠かせないピットも設置されている。こうした結果、スマートでありながら利便性の高い実践的なガレージが形となった。

実はガレージが完成した二ヵ月後に娘さんが誕生。喜ばしいことが続いたが、仕事と子育てで忙しい状況なのだという。「いずれは子供と一緒にドライブするのが夢ですね」とご主人。「娘と一緒にイジってくれたらもっと嬉しいんですよ」と奥様。中様邸の『スタイルコート』は、和やかな笑顔につつまれていた。



玄関先に置かれていたのはすでに現存ガレージが納まっている家の模型。ご自身でも3Dソフトでガレージのイメージを模索していた。



住居・玄関あたりから見る。クルマのブルーとレッドに、植栽の緑、『スタイルコート』の橋流カラーと、色彩豊かな光景だ。



ご主人は早速ネットで情報収集を開始。そして、LIXIL(TOEX)の『スタイルコート』に目も留まった。地元神奈川で『スタイルコート』を扱う施工業者『モーニングガーデン』に連絡をとり、その担当者・小林さんと話をためていった。県内にある『スタイルコート』の展示場へも訪れ、二人でロードスターを実際に入庫させて感触をつかんだという。「ご主人はガレージについてかなり勉強されている方で、やりやすかったですね」と語る小林さん。2人の打ち合わせ期間は1年にも及ぶこととなる。そのかいて、細かいところまで気が行き届き、さらに先を見据えた配線を施すなど、将来の発展性まで考えられたガレージが完成することになった。

LANを含むこの配線は、母屋からガレージへと地下に配管が埋められており、母屋ではガレージ用のブレーカーが設けられているという本格的なもの、さらに

敷地が道路から下がっているため、ガレージの場所は約40cmの盛り土がされた。そのため道路からのスロープには気を使ったという。



シャッター下は、水コリなどが入りやすいように段差が設けられている。

中様さんのお気に入り、帰宅後、折戸パネルから見える電球色スポットライトに浮かびあがる豪華なシルエント。その光景を見るたび「あー、よかったな。満足感にひたるのだという。



オイル交換から簡単な修理までこなす中様さん。何度もフロアジャッキを使った経験から、地下ピットの必要性は体で感じていた。その地下ピットの大きさは、幅と深さが90cm、長さが360cmとなっている。



OWNER'S CHECK

「一番気に入っているところは？」

玄関先に植えられたシンボルツリーの風。その風ぐしに見えるガレージとクルマの風景が気に入りました。

「ちょっと失敗したところは？」

ゴルフを入れると出入りが大変。でもロードスターより大きいクルマを入れることはないでしょう。

「次の夢はなんですか？」

10年後にロードスターで子供とドライブに行きたい。ロードスターの軽井沢ミニマージョ参加が夢です。

「読者へのアドバイスを！」

展示場にはスタイルコートが建っていることが多いんです。実際に愛車を入れてみると雰囲気はつかみやすいですよ。

COMMENT FROM A BUILDER

モーニングガーデン

小林 敦さん

当社はオーダーメイドのエクステリアやガーデン、ガレージにいたるまで、これらのデザイン・施工・資材販売に対応しています。中様邸のガレージについては、本邸より電気の配線が大変でした。実用重視の蛍光灯と雰囲気重視の電球色スポットライト、さらにテレビ、LAN、電話線も配線しているのですが、そのすべてに隠蔽配管を施しました。それ以外については、一緒にLIXILの展示場に行ったことや、地下ピットについてはスタイルコートのユーザーブログを見て検討したことなど、楽しみながら仕事をさせて頂きました。

神奈川県横浜市中央区弥生2-3-8
phone/042-776-0035
http://www.morning-garden.com

